

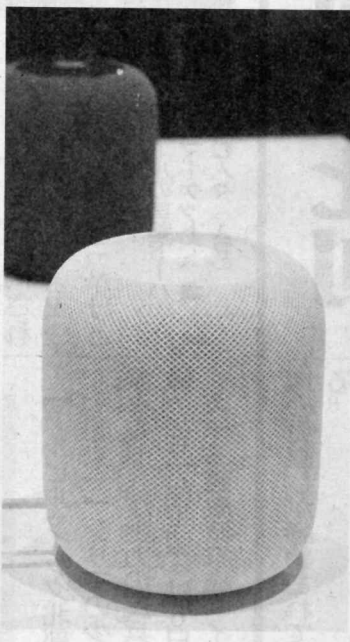
【サンノゼ（米カリフォルニア州）＝有光裕】話しかけるだけで音楽の再生や照明の調整などができる「会話型スピーカー」の開発競争が、米IT企業の間で激しくなっている。アップルは5日、人工知能（AI）搭載の新品「ホームポッド」の販売を12月に始めると発表。先行するアマゾン・ドット・コムやグーグルを追撃するが、価格の高さがネックとなり、消費者に敬遠される懸念もある。

音声を使った操作は、タッチパネルによる操作よりも簡単で、幅広い世代に浸透する可能性があり、各社が開発を急いでいる。ホームポッドは、高さ約17センチ。

## 会話型スピーカー 開発競争激しく

### アップル「ホームポッド」12月発売

材の円筒形で、音声認識するアップルの人工知能「Siri（シリ）」が内蔵されている。「Hey Siri」と呼びかけるまでは動き出さず、会話の内容を暗号化して保存するという。ホームポッドの米国での販売価格は349ドル（約3万8500円）。アマゾンが6月に投入する小型画面付きの新品「エコー・ショール」（約230ドル）や、グーグルの「グーグルホーム」よりも高い。マイクロソフトも参戦する意向を示すなど競争は激化しており、苦戦を強いられる可能性もある。



アップルが12月に発売すると発表した「ホームポッド」  
（有光裕撮影）